

寺田縄地区の「どんど焼き」の風景です。



恒例のサイトは刈り取りの終わった水田を借用し作られます



整いました。四方には生竹が立てられ、神域を表します。



歳神様を送る火が燃え上がりました。



一時、激しく燃えましたが、下火になりました。



金田公民館を会場に子供たちの手で作られた「だんご」も焼かれました。

「どんどやき」は、従来、1月15日に行われる小正月の行事でした。

お正月は、家々で歳神様を迎え 無病息災、家内安全、学問成就などを正月飾りに託して祈りました。

小正月には、家々に飾られた正月飾りをまとめて、道祖神付近でお焚き上げをし、歳神様を天空にお送りします。

その火で「だんご」も焼きます。家では、枝に刺した「まゆだま」が正月飾りとされました。後に、養蚕の衰退でしょうか、「まゆだま」に模した「だんご」が飾られました。

焼かれた「だんご」を食べると風邪をひかない。残り灰を畑にまくと豊作になる。燃えさしを玄関に置くと泥棒の被害にあわない。などと縁起が担がれました。

この「どんどやき」の主役は子供たちでした。学校から帰って、家々を回り正月飾りを集めます。その時にお小遣いをもらいます。

お小遣いはまとめられ、上級生の手により参加した子供たちに分けられました。配分は上級生が高額、学年ごとに段階があったようです。

現在のどんど焼きは、小正月前の休日に、日枝神社総代・自治会・子ども会により行われ、今年は13日の祝日でした。

このしきたりは、長い歴史を経ながら地域によってさまざまな形でおこなわれています。

(片山・記)